

こんしゅう  
今週のことば「サマリア」

せいしょ し と げんこうろく  
《聖書》使徒言行録 8:5-8, 14-17

サマリアは、イスラエルとユダの国に  
ぶんれつ じ だい き げんぜん  
分裂した時代（紀元前992-721）に、イ  
しゅと なんぼく はし しゅよう  
スラエルの首都として、南北に走る主要  
どうろ めん おか うえ けんせつ  
道路に面した丘の上に建設されました。  
おう ときた きゅうでん ぞうげ いえ  
アハブ王の時建てらた宮殿は「象牙の家」  
し  
として知られています。

じゅうみん はじ いきょう かみ  
サマリアの住民は、初めから異教の神  
がみ したが よ げんしゃ ぐうぞう  
々に従っていたので、預言者たちは偶像  
れいはい ひ なん まち ぼろ けいこく  
礼拝を非難し、町が滅びると警告してい  
とく き げんぜん せいき かつやく  
ました。特に、紀元前8世紀に活躍した  
かみ したが やくそく  
アモスとホセアは、神に従うという約束  
まも く なん あ  
を守らないと、どのような苦難に会うか  
つ たみ けいこく びし  
を告げましたが、民はその警告を無視し、  
ぼろ  
アッシリアによって滅ぼされました。サ  
じゅうみん ほしゅう つ さ  
マリアの住民たちは、捕囚として連れ去  
かわ も いき  
られ、その代りに、アッシリアの地域か  
い みん す  
らの移民が住みつきました。

しょうさう こんけつ じん  
少数の混血のユダヤ人たちは、サマリ  
のこ ざん かみ れいはい  
アに残り、ゲリジム山で神を礼拝してい

しんやくじ だい ひとびと  
ました。新約時代、この人々は「サマリ  
じん よ じん けいべつ  
ア人」と呼ばれ、ユダヤ人から軽蔑され、  
きらわれていました。

しょうきじ せんきゅう  
フィリポは、6章の記事では、宣教で  
しよくじ せわ じん  
はなく食事の世話をするために「七人」  
ひとり えら つた  
の一人に選ばれたと伝えられていますが、  
せんきゅう し と  
サマリア宣教では、使徒として、みこと  
かた き せき おこ せんきゅうしゃ えが  
ばを語り、奇跡を行なう宣教者として描  
かれていきます。

は けん  
ペトロとヨハネの派遣は、エルサレム  
きょうかい つね ちゅうしんてき せんざい こと しめ  
教会が常に中心的な存在である事を示そ  
いと あらわ  
うという意図の表れです。しかし、フィ  
かつやく  
リポの活躍は、エルサレムにとどまって、  
きょう わく で し と  
ユダヤ教の枠から出ようとしない使徒た  
おお し げき こと  
ちにとって、大きな刺激となっていた事  
あき  
は明らかです。

はたら とお わたし  
フィリポの働きを通して、私たちも、  
じ ぶん せま かく う やぶ あたら せ  
自分たちの狭い殻を打ち破り、新しい世  
かい ちょうせん ゆうき も こと たいせつ まな  
界へ挑戦する勇気を持つ事の大切さを学  
こと おも  
ぶ事ができると思います。

ふっかつせつだい しよくじつ ねんだい ろうどく たきの  
復活節第6主日A年第1朗読（滝野）